令和8年度　全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

１　調 査 日

令和８年４月 23 日（木）

２　調査集計対象

中学校第３学年生徒（公立）　全国　842,491 名（うち江戸川区　4,174 名）

３　区内実施校数

全中学校 32 校

４　調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

５　調査内容

（１）　教科に関する調査

○　国語・数学・英語（CBT）

（２）　生活習慣や学習環境に関する調査

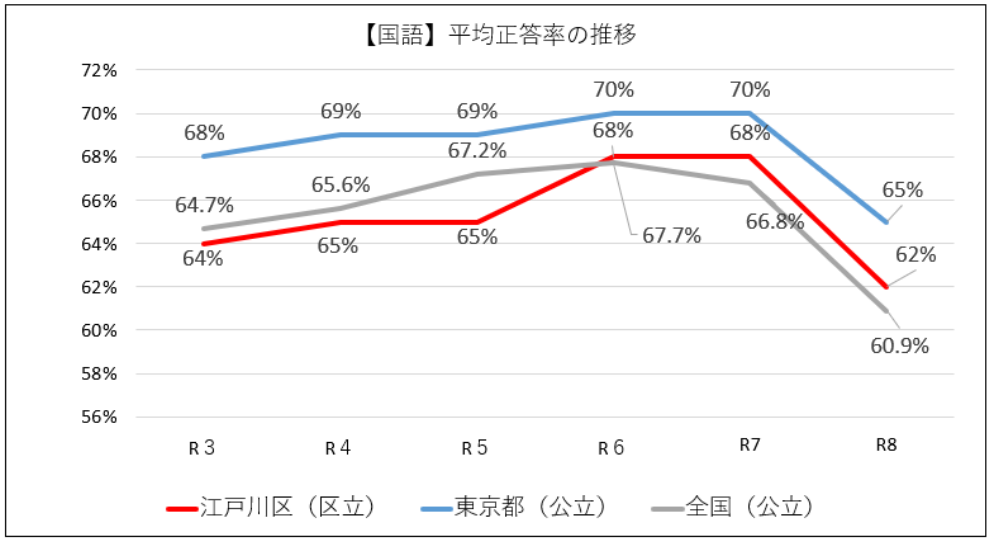
○　生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

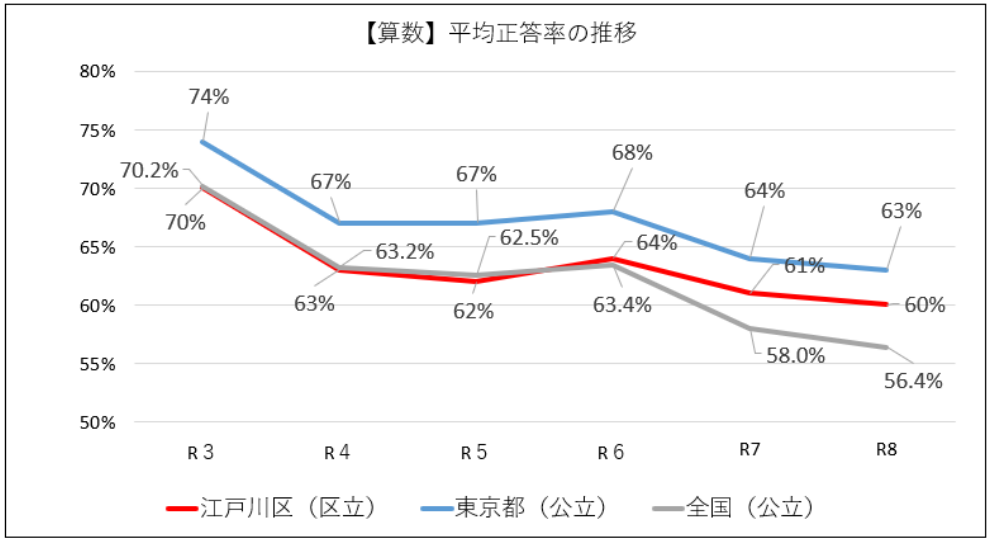
○　学校質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査）

江戸川区教育委員会教育指導課

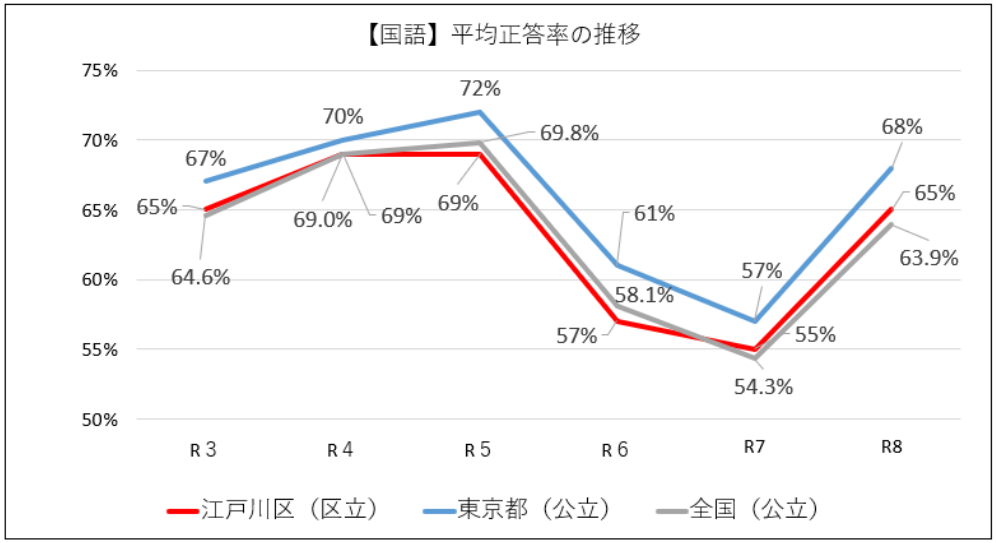
全国学力・学習状況調査　令和３～８年度における平均正答率の推移

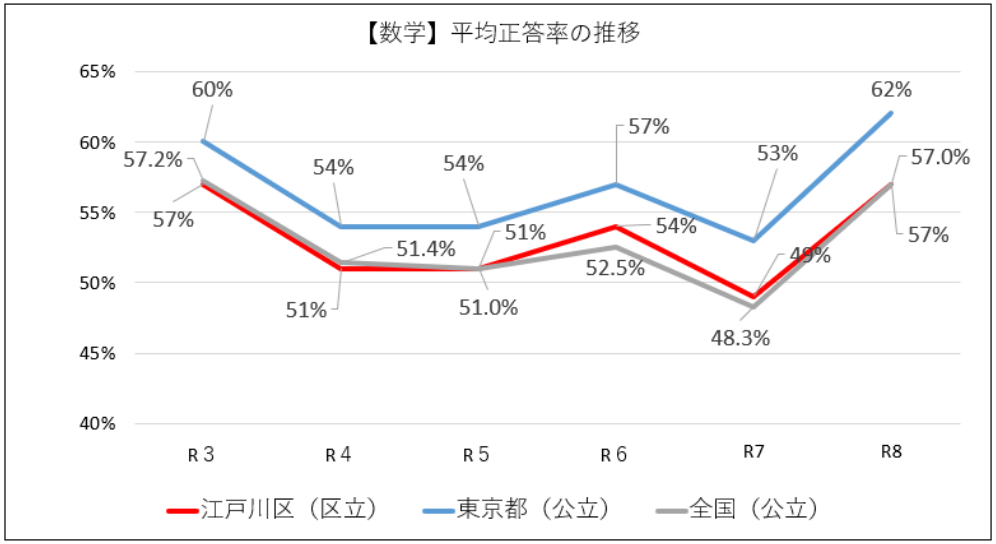
【小学校】





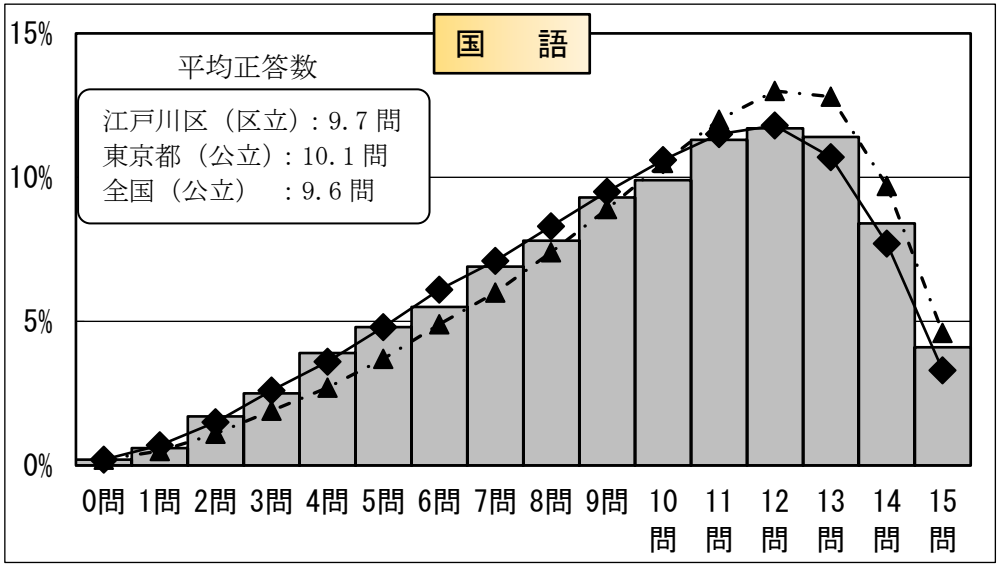
【中学校】

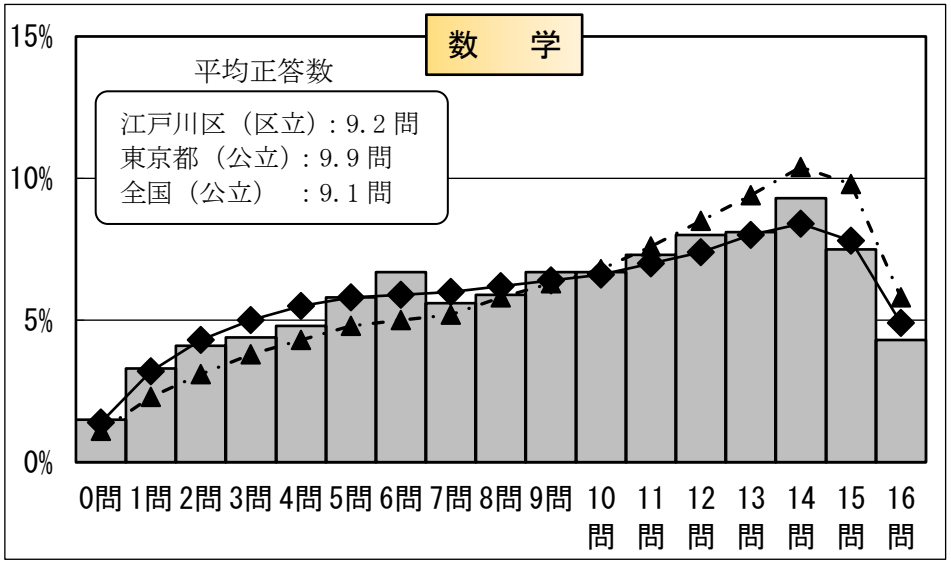




令和8年度　全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

正　答　数　分　布





＜四分位における割合（都全体の四分位による）＞

江戸川区（区立）　東京都（公立）　全国（公立）

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、生徒数の 1/4、2/4、3/4 にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって生徒をＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ層に分けた時のそれぞれの層の生徒の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

上位 ←→ 下位

国　語	Ａ層 13～15 問	Ｂ層 11～12 問	Ｃ層 8～10 問	Ｄ層 0～7 問
江戸川区（区立）	23.9	23.0	27.0	26.1
東京都（公立）	27.1	25.0	26.8	21.0
全国（公立）	21.7	23.3	28.4	26.6

(%)

上位 ←→ 下位

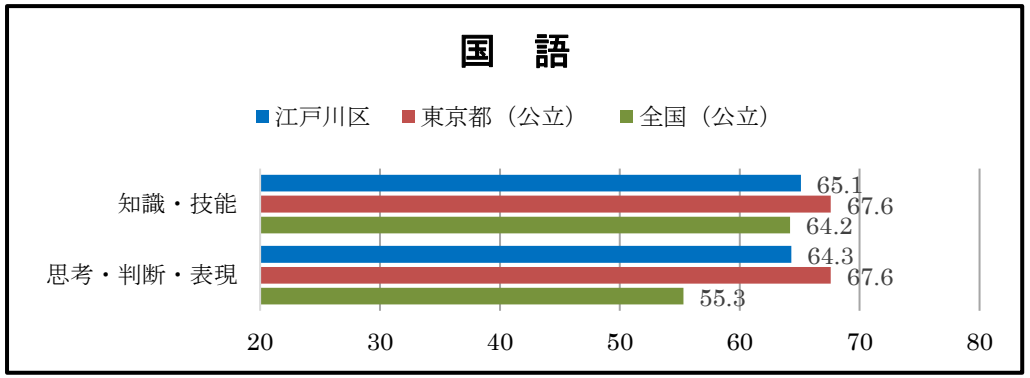
数　学	Ａ層 14～16 問	Ｂ層 11～13 問	Ｃ層 7～10 問	Ｄ層 0～6 問
江戸川区（区立）	21.1	23.4	24.9	30.6
東京都（公立）	26.0	25.5	24.1	24.4
全国（公立）	21.1	22.4	25.2	31.1

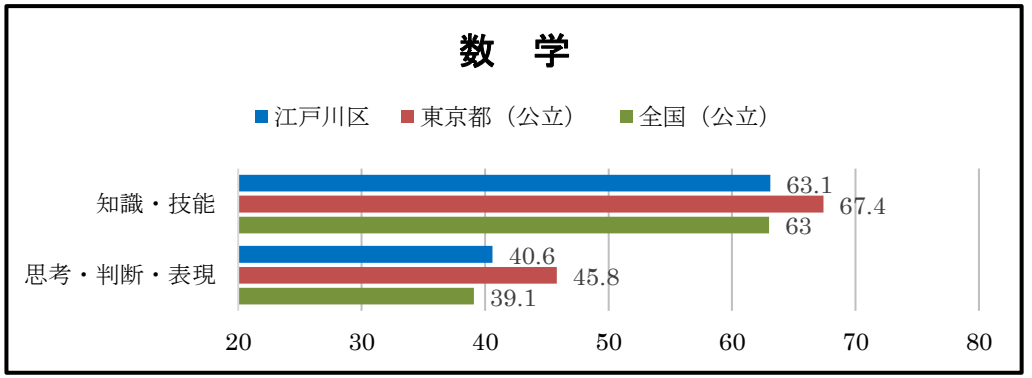
(%)

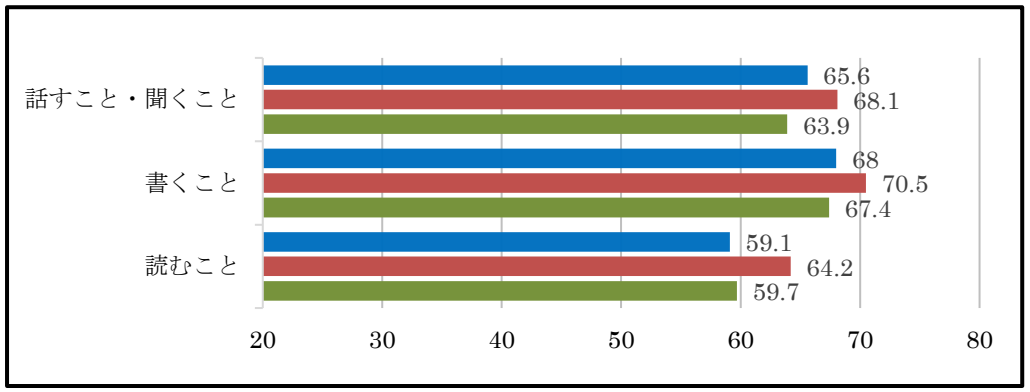
令和8年度 「領域別」の結果と課題 【中学校】

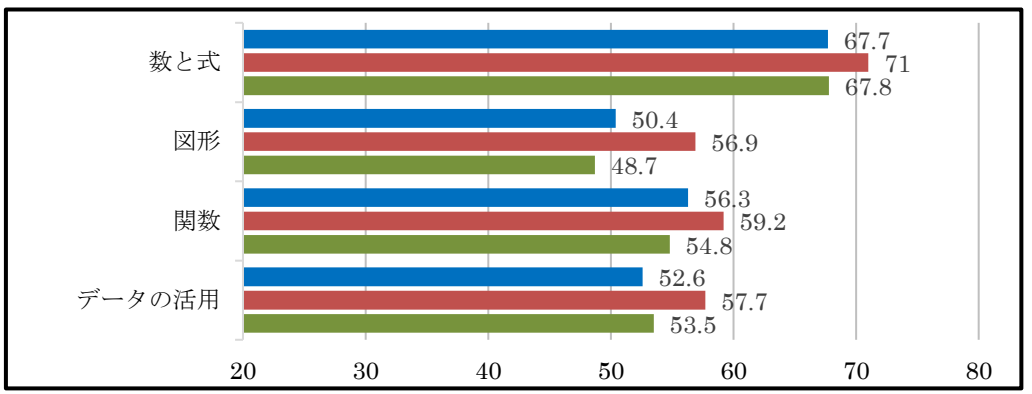
「領域別」の結果

以下、平均正答率（%）を示す。









【平均正答率の差】

	国語	数学
江戸川区（区立）	65%	57%
東京都（公立）	68%	62%
全国（公立）	63.9%	57%

【全国平均、東京都平均との関係】

＜全国との関係＞

○全国平均正答率について、国語は**1.1ポイント上回り**、数学は**全国平均正答率と同じ結果だった。**

○「知識・技能」において、国語の正答率は全国平均正答率を**0.9ポイント**、数学の正答率は全国平均正答率を**0.1ポイント上回った。**

○「思考・判断・表現」において、国語の正答率は、全国平均正答率を**0.6ポイント上回り**、数学の正答率は、全国平均正答率を**1.5ポイント上回る。**

＜東京都との関係＞

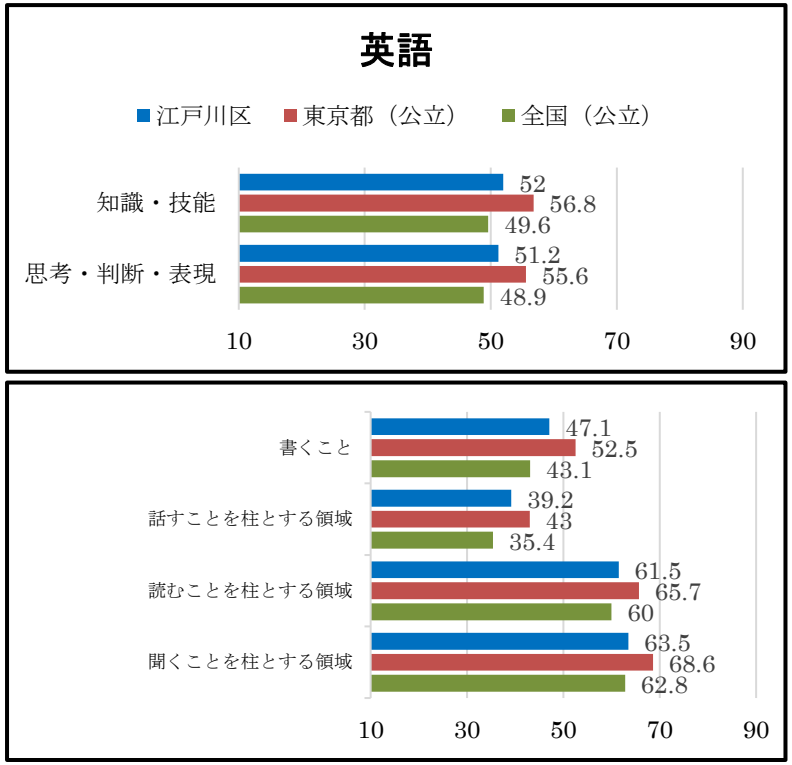
○国語は「話すこと・聞くこと」で-2.5ポイントに対し、「読むこと」では-5.1ポイントと差が大きい。

○数学において、他の領域に比べ、「図形」の平均正答率が-6.5ポイントと、差が大きい。

令和8年度　全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

「領域別」の結果

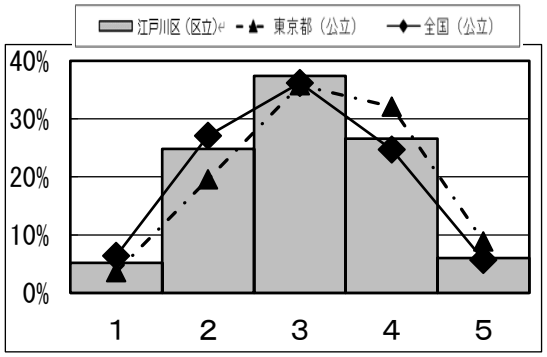
以下、平均正答率（%）を示す。

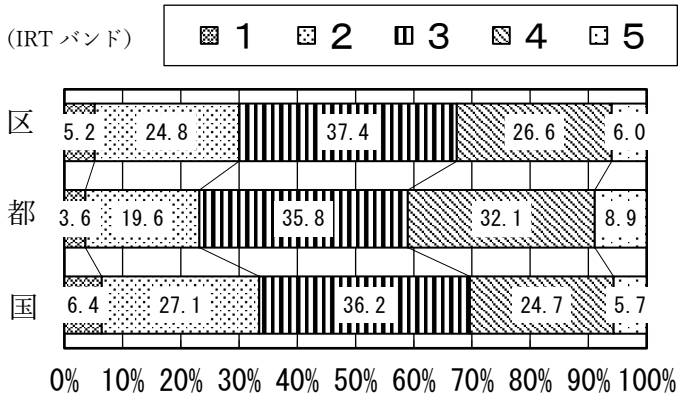


ＩＲＴバンド分布

【平均ＩＲＴスコア】正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にして算出された生徒のスコアを足し合わせて平均をとったもの。
【ＩＲＴバンド】各バンドの問題をおおよそ（80%の確率で）正答できる力があると推定される割合。

英語





【平均ＩＲＴスコア集計値の差】

英語	平均ＩＲＴスコア（点）
江戸川区（区立）	508
東京都（公立）	529
全国（公立）	499

上位 ←→ 下位

理　科	ＩＲＴバンド5	ＩＲＴバンド4	ＩＲＴバンド3	ＩＲＴバンド2	ＩＲＴバンド1
江戸川区（区立）	6.0	26.6	37.4	24.8	5.2
東京都（公立）	8.2	32.1	35.8	19.6	3.6
全国（公立）	5.7	24.7	36.2	27.1	6.4

(%)

【全国平均、東京都平均との関係】

＜全国との関係＞
○平均ＩＲＴスコア集計値は、全国平均ＩＲＴスコアを９ポイント上回る成果が見られた。
○「知識・技能」で 2.4 ポイント上回り、「思考・判断・表現」でも 2.3 ポイントと上回る成果が見られた。
○「書くこと」の領域で４ポイント上回ったのに比べ、「聞くこと」の領域では 0.7 ポイントと差が少なくなっている。
＜東京都との関係＞
○「知識・技能」において-4.8 ポイントの差があり「思考・判断・表現」においても-4.4 ポイントと都平均正答率との差が大きい。
○「話すこと」の領域で-3.8 ポイントに比べ、「書くこと」の領域については、-5.4 ポイントと書くことの領域についての差が大きい。

令和８年度「設問別」の結果と課題【中学校】

国語

平均正答率が東京都と同じ問題

2

二【話し合いの一部】の――線部②「例えば、『歌声に強弱がつけられていない』や『高い音の部分がうまく歌えない』は、歌の表現の仕方になりますよね。」という発言について説明したものとして最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選びなさい。

１　石川さんの発言の中で間違っている部分を指摘している。
２　石川さんの考えと自分の考えとの相違点を明らかにしている。
３　石川さんの考えに対する自分の理解が合っているかを確かめている。
４　石川さんの発言に反対する意見を具体的な例を挙げながら述べている。

【出題の趣旨】
２二
必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる

【正答率】
江戸川区　74.4%　　東京都　74.4%　　全国　70.4%

【本区のこれからの取組】
解答するためには、話の内容の構造を把握し、全体を捉える必要がある。朝学習や授業において、本区が継続して行ってきた新聞記事を活用した読解教材への取組は、生徒の読解力向上に一定の成果を上げている。生徒の読解力を高めるとともに目的に応じて伝える事柄を選択・再構成できるよう指導してきた。引き続き目的に応じて「簡潔に」、「分かりやすく」書く活動を充実させ、生徒の資質・能力を育成していく。

平均正答率が東京都より低く、無解答が多い問題

4

四　林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、《具体的な場面》を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、《例文1》と《例文2》を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

《具体的な場面》



《例文1》（擬態語を使っていない例文）
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

《例文2》（擬態語を使った例文）
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件1　《例文2》の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件2　条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

【出題の趣旨】
４四
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる

【正答率】
江戸川区　38.3%　　東京都　44.8%　　全国　38.9%
【無解答率】
江戸川区　19.3%　　東京都　15.1%　　全国　18.6%

【本区のこれからの課題】
文章を読み取り、理解したことに基づいて、自分の考えを記述する問題に対して課題がある。
自分の書いた文章について、読み返したり他者と意見交換したりして推敲する機会を充実させる必要がある。

令和8年度「設問別」の結果と課題【中学校】

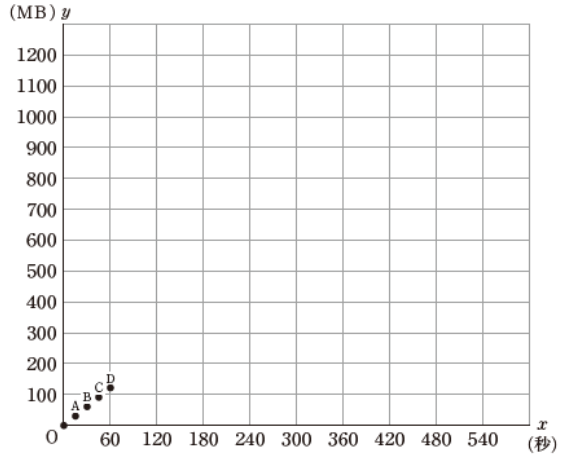
数学

平均正答率が全国平均より高い問題

7

（2）光希さんは、1000 MB のデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの調べた結果を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000 MBになるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、x 座標や y 座標、x の値や y の値など、x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

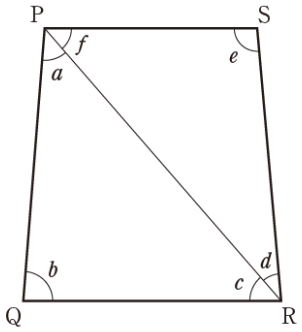
【出題の趣旨】
7（2）
数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

【正答率】江戸川区　37.8%　　東京都　40.3%　　全国　33.9%

【本区のこれからの取組】
東京都とは 2.5 ポイントの差がある一方で、全国より 3.9 ポイント上回る成果が見られた。単元別検定・総合検定を継続して行った結果として、生徒が数学的な事象を解釈し、問題解決の方法について理解を深めることができた。問題解決の手法として、グラフを用いる場合、式を用いる場合など課題解決への見通しをもたせる指導を継続する。また直線のグラフを描いて、座標を読み取らせるための活動を実施するなど、数学的な事象に対しての課題解決の手法を用いる指導を継続する。

平均正答率が全国より高いが、東京都との差が大きい問題

3　下の図は、四角形PQRSに対角線PRをひいたものです。



上の図において、∠a から∠f までの６つの角のうち、ある２つの角の大きさが等しければ、PS // QR であるといえます。その２つの角を書きなさい。

【出題の趣旨】
3
２直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる

【正答率】
江戸川区　49.5%　　東京都　56.9%　　全国　49.1%

【本区のこれからの課題】
全国を 0.4 ポイント上回る成果が見られたが、東京都とは 7.4 ポイントの差がある。＜b と＜e と回答する誤答が最も多かった。図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて考察することや、基礎・基本である二直線が平行になるための条件や錯覚の性質を理解しなければならない。本区の傾向として、図形に対しての正答率が低い課題がある。図形の性質などを考察する際には、図形を構成する要素やその関係に着目させ、根拠を基に考えを説明する活動を充実させる必要がある。

令和８年度 「設問別」の結果と課題 【中学校】

英語

平均正答率が全国平均より高い問題

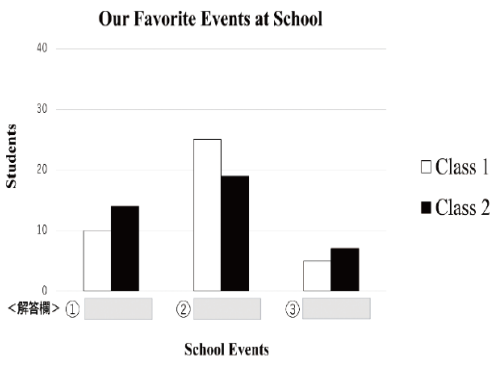
6

次の【文章】を読み、【グラフ】の中の①②③の　　に入る学校行事を、下の＜選択肢＞の中からそれぞれ１つ選び、＜解答欄＞に移動させなさい。

【文章】

The students in Class 1 and Class 2 chose their favorite school events from the music festival, the school trip, and the sports festival. They like the school trip the best. The sports festival is more popular in Class 2 than in Class 1. Only a small number of students in both classes chose the music festival.

【グラフ】



＜選択肢＞

School trip　Sports festival　Music festival

【出題の趣旨】
6
音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる

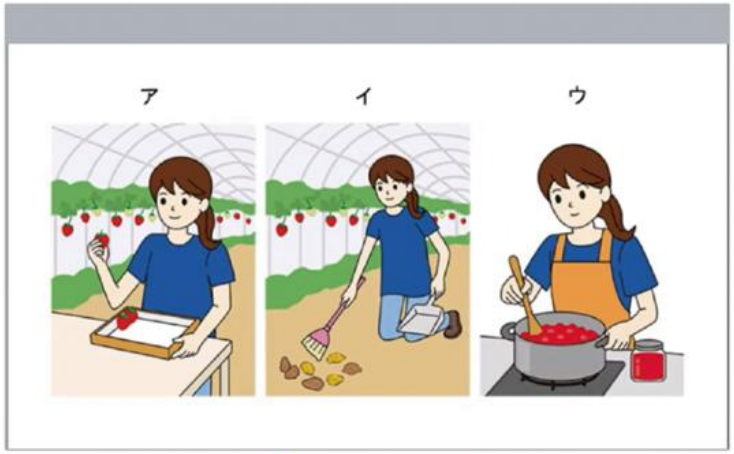
【正答率】江戸川区　67.4%　　東京都　72.2%　　全国　67.3%

【本区のこれからの取組】
東京都との平均正答率が 4.8 ポイントであるが、全国の平均正答率を上回っている。
「読むこと」の項目は「聞くこと」より東京都との平均差が少なく、情報を読み取る力は身についてきている。引き続き、ＡＩ英会話アプリの活用などを促し、「聞くこと」や「話すこと」の指導を充実させる。

平均正答率が東京都、全国より低い問題

4

＜問題文＞
しおりが、先週、いちご農園で体験したことについて英語で発表します。しおりの発表を聞いたあと、ア、イ、ウの３枚の絵が示されます。しおりが体験した順に、①②③の中に入る絵を、１つずつ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。



＜解答欄＞ ①　選択肢から選ぶ　→　②　選択肢から選ぶ　→　③　選択肢から選ぶ

【出題の趣旨】
4
日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる

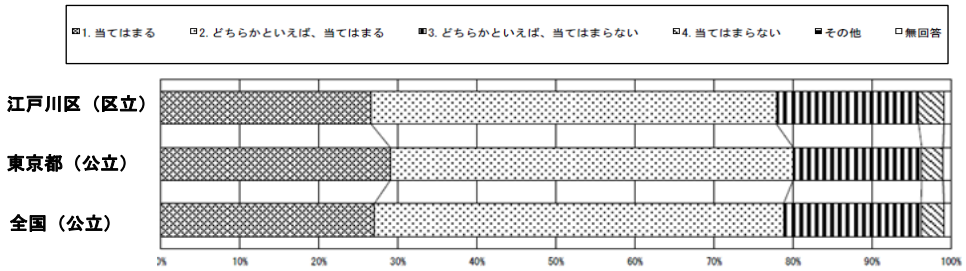
【正答率】江戸川区　41.8%　　東京都　49.6%　　全国　43.8%

【本区のこれからの課題】
平均正答率について、全国より 2.1 ポイント低く、東京都とは 7.8 ポイントも差があった。他の項目などと比較しても差が顕著であった。
誤答の傾向から、場面での出来事を時間の流れに沿って聞き取ることを苦手としていると考えられる。
学習指導にあたっては、話される順番に着目して英語の音声を聞く活動を取り入れた授業や、聞き取った情報から場面の移り変わりを整理させるような指導方法が求められる。

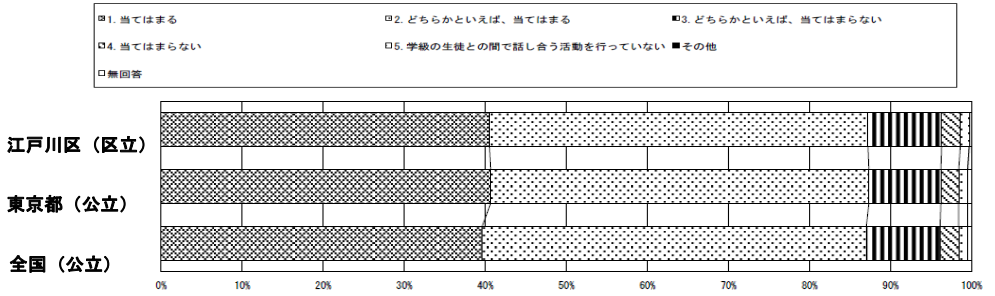
令和8年度　生徒質問紙調査【中学校】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

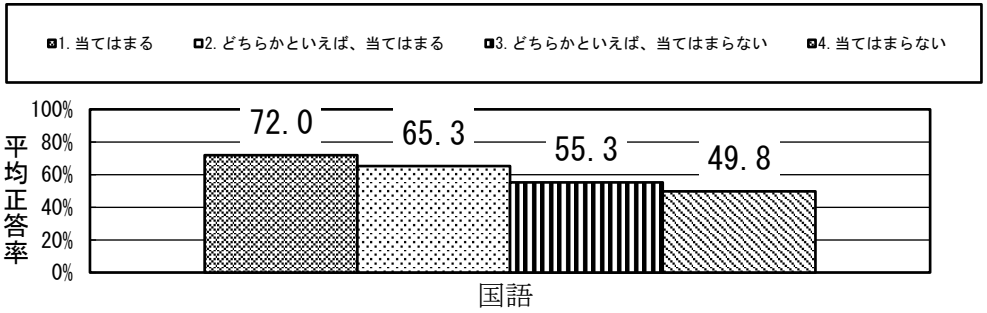
39　１、２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

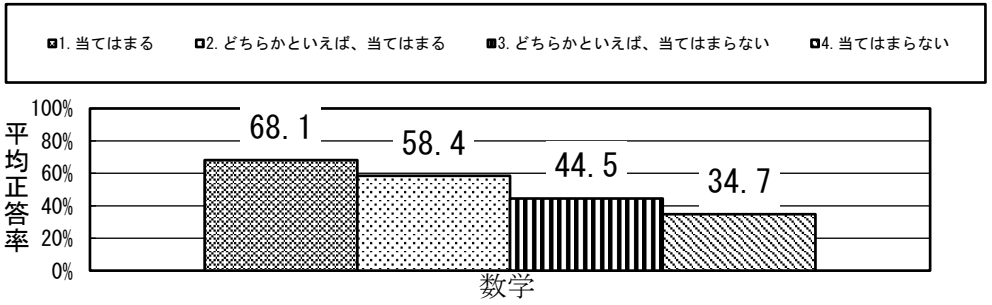


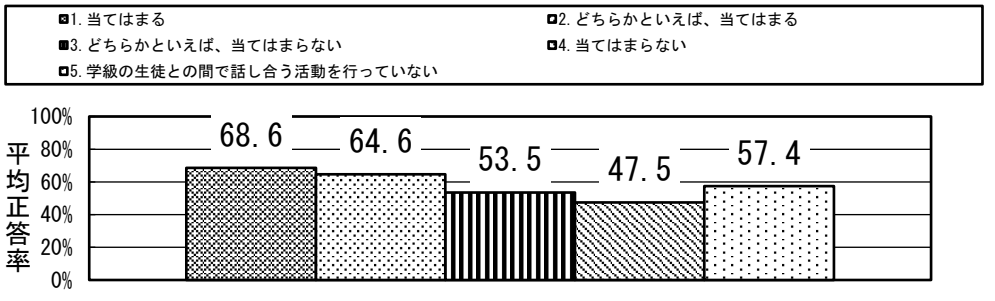
42　学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

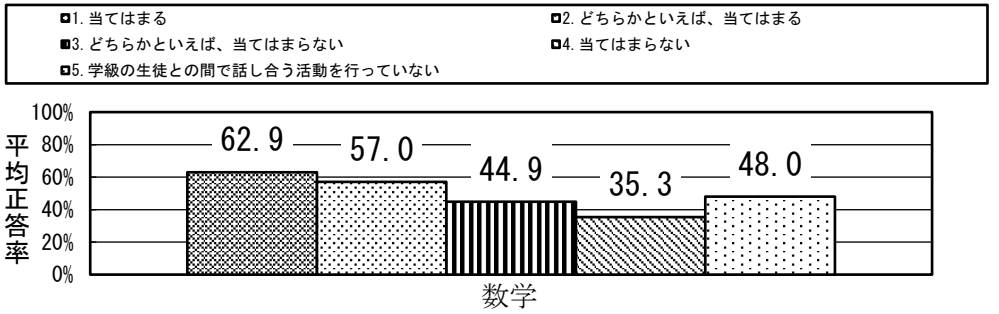


授業への主体的な取組と学力のクロス集計







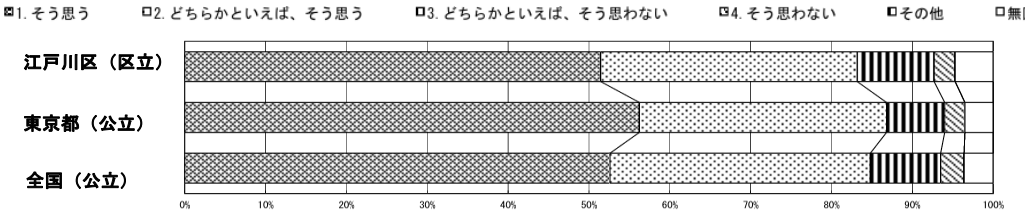


「１、２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という項目に対して、東京都平均、全国平均を下回っていた。一方で、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目では、全国平均を上回り、東京都平均との差は０、２ポイントだった。話し合い活動の有用性は生徒も感じており、平均正答率とも関係している。引き続き、主体的・対話的で深い学びの視点から話し合い活動を充実させる取組が必要になる。

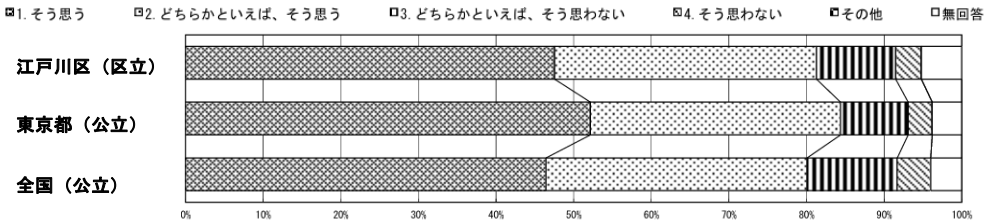
令和８年度　生徒質問紙調査【中学校】

ICTを活用した学習状況

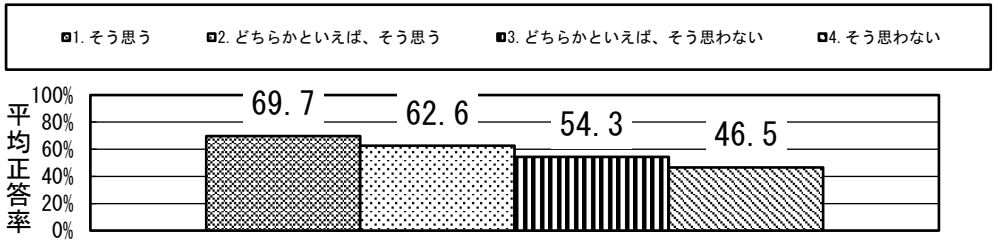
36-1　あなたは自分がPC・タブレットなどのＩＣＴ機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか

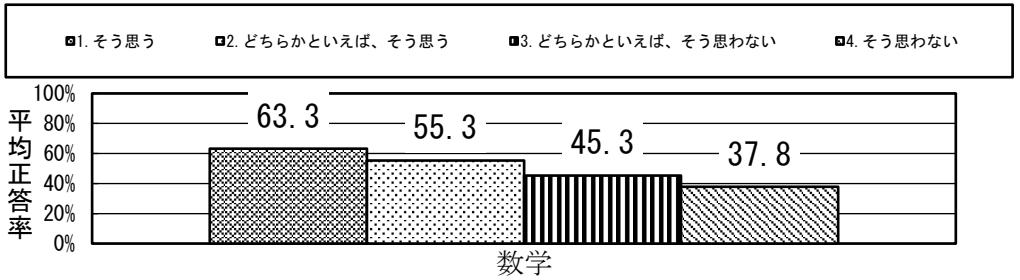


36-4　あなたは自分がPC・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか

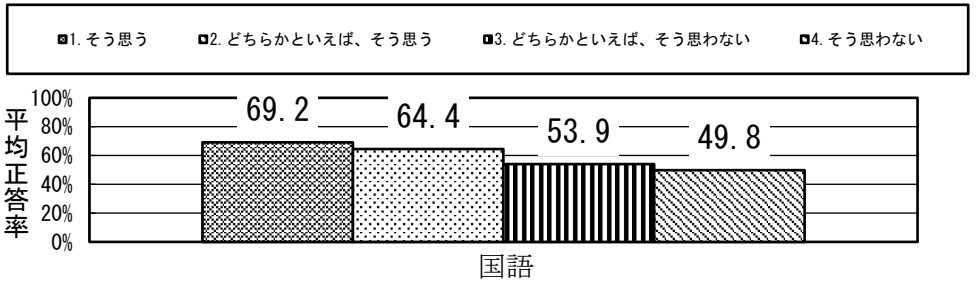


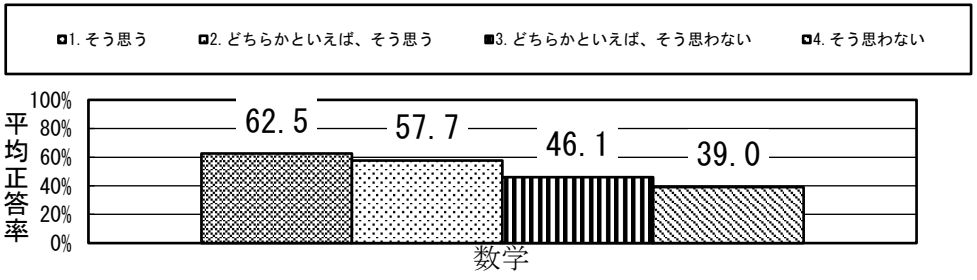
ICT活用の効力感と学力のクロス集計





学習習慣と学力のクロス集計



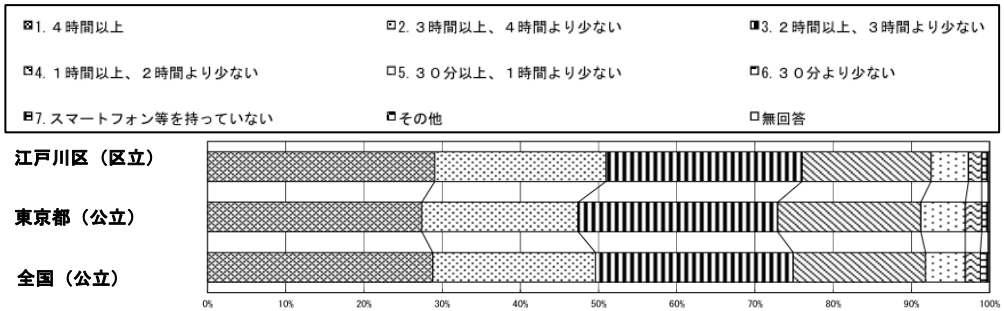


約８割の生徒が「ＩＣＴ機器で文章を作成することができる」、「プレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」と回答している。「ＩＣＴ機器で文章を作成することができる」と解答した生徒が全国平均を下回った一方で、「プレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」で「そう思う」と回答した生徒が全国平均を上回っており、肯定的に答えた生徒の方が、学力の向上に結び付いている。各学校にて、プレゼンテーションを行う機会が増えていることが読み取れる。引き続きＩＣＴ機器を効果的に活用することを行い、生徒の「個別最適な学び」や「協働的な学び」の機会を充実させ、プレゼンテーション等の実施を通じて、生徒一人ひとりの思考力・判断力・表現力の育成を育んでいく。

令和８年度　生徒質問紙調査【中学校】

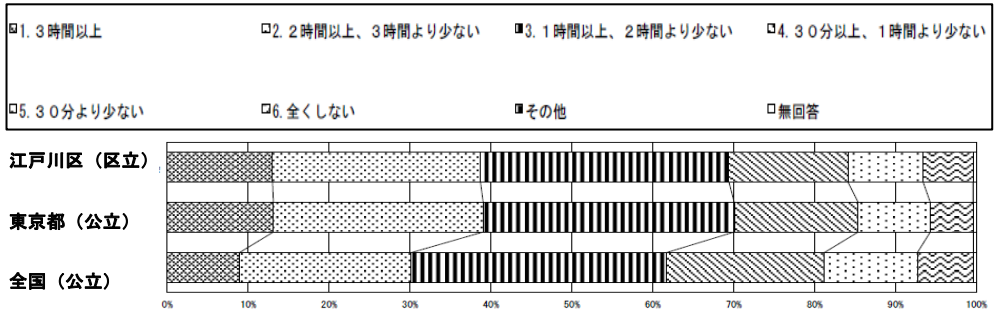
基本的生活習慣

4　普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等で SNS や動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

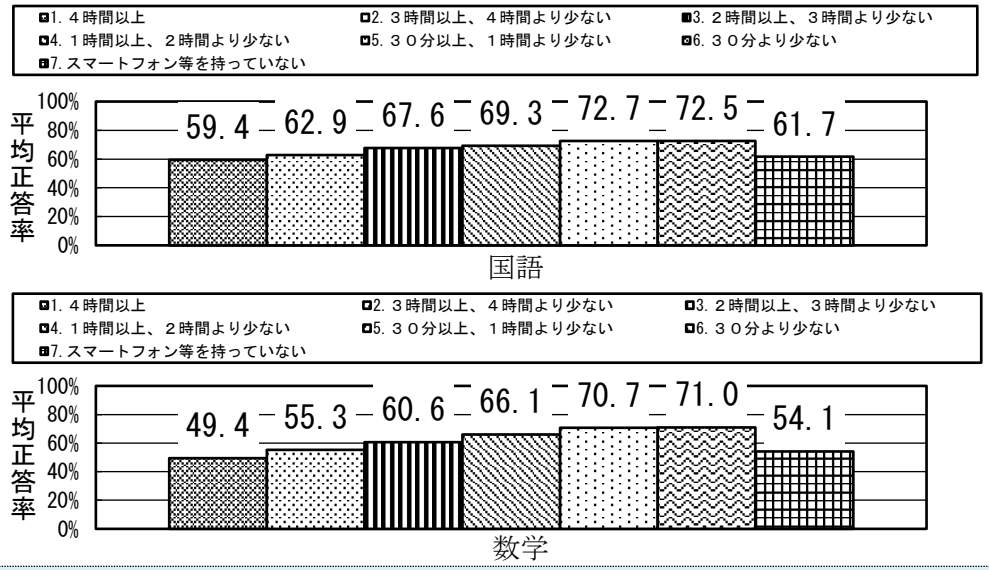


学習習慣・学習環境等

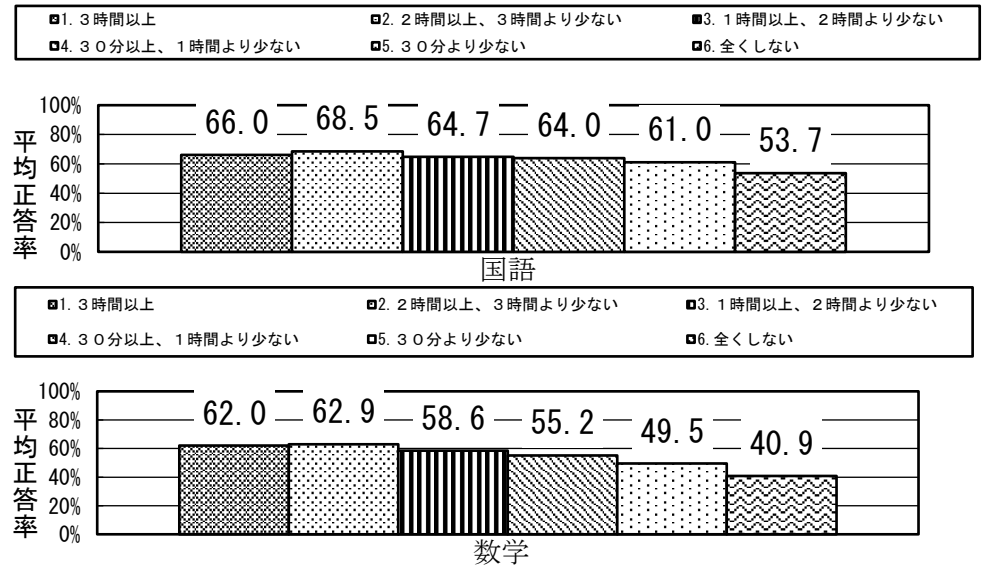
23　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



基本的生活習慣と学力のクロス集計



学習習慣と学力のクロス集計



「1 日当たりどれくらの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等で SNS や動画視聴などをしますか」という質問に対し、4 時間以上と回答した児童の割合が小学校と同様に全国及び都を上回っている。その一方で、「学校の授業時間以外に、1 日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」という項目では、全国を上回り、都の数値と０．１ポイントの差しかなく、中学校段階においては、家庭学習等の機会が小学校より上回る結果となった。定期考査期間のみに偏るのではなく、日常から継続的な家庭学習の機会を設定し、引き続き生徒の学習習慣の確立に向けた取組を実施していく。

令和8年度　学力向上に関わる主な取組【中学校】

〇「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の策定
・「江戸川区立学校における学力向上に向けた取組の指針について」における論点を基に、学力向上に向けた具体的な取組を推進

〇学力向上プロジェクト推進局の設置
・学力向上を目的とし、学力向上プロジェクト推進局を設置し、中学校国語、数学、英語の３つのチームでプロジェクトチームを構成

〇プロジェクトチームの取組
・「単元別検定・総合検定」（数学）の実施
・EESA 英語授業力アップ講座を年間６回開催
・読解力向上を目指し、新聞記事を活用したワークシート教材（年間 30 回）を第１学年、第２学年、第３学年（前期のみ）で実施

〇江戸川区学力調査の実施
・国語、数学、英語、学習意識調査を第１，２学年で実施

〇教科アドバイザー（数学・英語）の派遣
・若手教員を含む教員全体の授業力向上に向けた取組を強化

〇ＥＤＯＧＡＷＡ　ＳＵＴＵＤＹ　ＳＱＵＡＲＥ～誰一人取り残さない学習支援事業～
・放課後学習教室（ＥＤＯスク）を令和４年度から全校で実施

〇東京方式 習熟度別指導ガイドラインに基づく効果的な「習熟度別指導」「少人数指導」の推進
・数学、英語の授業において、効果的な「習熟度別指導」、「少人数指導」を実施

〇ＩＣＴを活用した協働学習の推進
・各教科等の授業で一人１台端末を活用し、授業改善を実施

〇学校図書館の活用
・学校図書館の環境整備を進め、各教科等で学校図書館を活用、学校図書館への区立図書館職員の全校巡回

〇「読書科」の充実
・読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を育成（全校の各学年で年間 35 時間実施）

〇電子ドリルの活用
・電子ドリルを活用した「江戸川っ子 study week!」の実施（各学期に１週間実施）

〇 小学校１年生から中学校３年生までの９年間を見通した英語教育の充実
・江戸川区英語教育プログラム Edogawa　English　Program 理論編、実践編の作成、オンライン英会話、ＡＩ英会話アプリの導入